

間違わない補聴器の選び方(3)

博士補聴器 代表 由井 宏知

今回は補聴器の種類とそれぞれの利点/欠点、価格についてなど、皆様からよく頂く質問とその答えをご紹介します。

Q1 補聴器にはどのような種類がありますか？

一般的に使用されている補聴器は形状によって大きく3つに分類されます。

- ① 本体を耳に掛ける耳かけ型
- ② 本体を外耳道内に入れる耳あな型
- ③ 本体とイヤホンの間がコードでつながれている

るポケット型

さらに「耳かけ型」は2種類に分類され、本体の中にレシーバー（音が出る部分）があり、空洞のチューブと耳栓を通じて耳に音を入れるBTEと、本体の外に導線がつながれたレシーバーがあり、レシーバー部分のみ直接外耳道に入れるRICがあります。

また、特殊なものとして、骨を振動させ音を伝える骨導型などもあります。形状によって利点と欠点があり、さらに近年ではスマートフォンと連携できるもの、完全防水タイプのものなど特徴のある補聴器もありますので、補聴器の種類を選ぶ際は聴力やご自身の生活習慣などに応じて相談しながらお決めいただくのが良いと思います。

	利点	欠点
耳あな型 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいものは目立ちにくい ・電話を通常通り使用できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいものだと十分な音量を得られない場合がある ・耳かけ型に比べ少し高価な場合がある
耳かけ型 (BTE) 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な音量を出せるため重度難聴にも対応できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・目立ちやすい ・電話を使用する際にコツが必要
耳かけ型 (RIC) 	<ul style="list-style-type: none"> ・目立ちにくい ・レシーバー部分のみ交換できるため聴力の変化に対応できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・電話を使用する際にコツが必要
ポケット型 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な音量を出せるため重度難聴にも対応できる ・他の形状に比べて電池が長持ち 	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクの位置によっては衣擦れ音が気になる ・コードがあるため邪魔になる場合がある
骨導型 	<ul style="list-style-type: none"> ・外耳道をふさがらないため不快感がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・眼鏡型、ヘアバンド型などデザインに限られる ・十分な音量が得られない場合がある

Q2 補聴器と集音器はどのような違いですか？

両者の大きな違いは、医療機器かそうでないか、聴力に応じた調整ができるかどうかでないかです。

補聴器は聴力損失を補う為の管理医療機器であり、調整者が使用者の聴力に合わせて、聞こえにくい部分を補うように細かく音を調整し、使用者の希望や生活習慣に合わせて付加機能の設定などを行います。

また医療機器として、難聴者の安全を守り効果をあげるための様々な規制があり、大きな音から耳を保護するための出力制限装置が必ず付いています。

Q3 価格が安いものと高いものは何が違うのでしょうか？

価格の違いは簡単に言うとな機能の違いであり、価格が安いからといって音が聞こえないというわけではありません。

雑音抑制機能などが強力で付加機能も充実している、音の帯域を細かく分割して調整できるものほど高価ですが、その分快適で疲れにくい傾向があります。

聴力や感覚の度合いによっても機能の違いを感じやすい方と感じにくい方がいらっしゃると思います。是非様々な価格帯の補聴器を聞き比べてみて、聴力や生活のニーズ、ご予算に応じてご検討ください。

Q4 補聴器は雑音がつるのでしょうか？

雑音の感じ方は聴力によって個人差があります。が、最近のデジタル補聴器は以前の補聴器と比べ格段に進化があり、雑音抑制機能も充実しています。

実際に雑音を制御する効果は高いという結果も出ており、新機種が出る度に性能は向上しています。ハウリング音（補聴器からピーピー鳴る音）についても同様です。

今回は、難聴者への配慮についてご紹介します。